

はにい 『いのちとふれ合う』

令和元年12月17日

「みんな静かに！」「のぞみちゃんがびっくりしちゃう！」3年生の女子児童が、犬を目の前にして興奮し始めた仲間を諭す。

のぞみちゃんは、セラピードッグだ。アニマルセラピー（動物と触れ合うことで、心が癒され、心身ともに健全な生活を送ることができるように支援する福祉活動）の体験学習で、コクアとルーシーとともに学校を訪れている。

セラピードッグにも向き不向きがあるという。性格もそれぞれ。指示を聞いて遊ぶのが大好きな大型犬コクア、小さい子は苦手だけど、困っている人をほっておけないルーシー、そして、挨拶が大好きなのぞみちゃん。しかし、のぞみちゃんは、強くなでられることや、大声が苦手。そんなセラピードッグたちの性格についての説明が、冒頭の声かけにつながった。

全体が落ち着いたところでいよいよ触れ合いタイム。まずはこぶしを鼻の前に。匂いをかぎ、安心したら、触れ合いのスタート。

グループに分かれたところで、ある児童は、なかなかセラピードッグに触れない仲間に気がついた。「大丈夫だよ」と声をかけ、一緒に触ってあげようと、手を差し出す仲間もいる。でも、決して無理強いはいしない。見ているだけでも癒されるのが、このセラピーの特徴でもある。しかし、いつの間にかグループ全員が触れ合い、一人ひとりの表情が和らいでいった。



セラピストの方から、犬の寿命についての話を聞いた。大型犬の1年は人間の7年。1日で

人間の7日（1週間）を生きただことになる。「セラピードッグは、楽しく、充実した一日を過ごせたのだろうか」と考えたことをきっかけに、セラピストは自分自身にも同じように問いかけるようになったという。

セラピストの話を聞き、子どもたちは「私は1日をどう生きているのだろう。」「今日を無駄にしない。」「チャレンジを恐れない。」とそれぞれの思いを語り合った。

セラピードッグも人間も、表情や行動をしっかりと見れば、言葉がなくても思いは伝わる。セラピードッグとの触れ合いを通してたくさんのことを学んだ子どもたち。お互いを見るまなざしが、温かく優しくなった。『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。

